

Forte

躍進する病院

ゼロ・カーボン先進地区に新築移転 専門性高い救急医療で地域連携

社会医療法人北九州病院
北九州総合病院

環境モデル都市・北九州市のゼロ・カーボン街区のシンボルとして、今年5月に新築移転した北九州総合病院。省エネ設備に加え、スタッフの動線に配慮した院内設計、ワンフロアで検査まで対応可能な救命救急センター、専門医による「重度四肢外傷センター」開設など、高い専門性で地域の救急医療を担っている。消化器・呼吸器疾患に関しても腹腔鏡・胸腔鏡に特化した患者に優しい手術を行う。グループ病院の中心として地域医療をけん引する同院の特色と今後の展望について、永田直幹院長にお話を伺った。

環境都市の象徴として ゼロ・カーボン街区に開院

かつて「鉄の街」であった北九州市は、今や「環境産業の街」として変貌を遂げつつある。2008年には、地球温暖化を防止し低炭素社会を推し進める上での先駆的モデルである「環境モデル都市」に選定。2010年には「アジア低炭素化センター」を開設するなど、公害を克服した環境技術と経験を活かして「世界の環境首都」を目指したまちづくりを掲げている。

北九州市の中でも城野地区は「城野地区低炭素先進モデル地区」（ゼロ・カーボン先進街区）として、街区単位で二酸化炭素の大幅削減を進め、多世代で「暮らし続けられる」「ゼロ・カーボン」「子育て支援・高齢者対応」に取り組んでいる。こうした環境都市の顔として今年5月、北九州総合病院の新病院が新たにオープンした。JR城野駅からデッキを通って病院に直結し、環境都市の象徴にふさわしい省エネルギー設計と免震構造、動線に配慮した救命救急センター、最新の手術設備などを兼ね備えた次世代の病院として存在感を放っている。

1959年に北九州病院湯川療養所として開設された同院は、9病院1介護老人保健施設を展開する北九州病院